

「2022年度インドネシア大学スプリングスクール（オンライン）派遣参加報告書」

京都大学農学部2年 永谷道朗

① 学習成果

私自身は以前インドネシア語を独学していたのだが、先生に教わるのは初めてだったので、インドネシア語の日常会話を練習する貴重な機会になったと思う。これによって、インドネシア語の基礎的な表現がより良く身に付いたように思われる。

また、言語以外にも料理や踊り、伝説などといったインドネシアの文化にも触れられた。その中で、インドネシアの文化には他の様々な文化が寄与していることがわかった。例えば、pastel krukup という料理の食材にはインドネシア東部・中国・オランダからの影響が見られる。

また、現地の学生と交流する中で、インドネシアの言語の多様性を実感した。国内でインドネシア語以外の様々な言語（地方語と呼ばれる）が話される他、インドネシア語自体にも方言があるようで、例えば標準的なインドネシア語では/e/と/a/を区別するが、メダンで話されるインドネシア語の方言では後者が前者へ合流するという。

② 海外での経験

現地の学生と交流したのだが、彼らの日本語が非常に上手くて驚いた。

また、現地学生との交流を通じて現地の状況について新たな情報を得た。

例えば、日本の高校では外国語の時間に英語しか学ばないのが普通だが、インドネシアではドイツ語やフランス語といった英語以外の言語も習うのが普通だという。また、インドネシアでは日本のポップカルチャーの他に韓国や中国のポップカルチャーも人気で、韓国語や中国語を学ぶ者も多いそうだ。

③ プログラム内容

プログラムはZOOM上で行われた。語学の授業が主で、インドネシア語の様々な会話表現（自己紹介・方向や交通手段を尋ねる、相手の予定を確認する、等々）を習い、先生や他の日本側の生徒らと会話練習をしたり、現地の学生とインドネシア語で話す練習をしたりした。

加えて、インドネシアの学生と交流する機会もあった。具体的には、インドネシア語の授業にインドネシアの学生が参加して日本側の学生と話したり、逆に日本側の学生が日本語の授業に参加してインドネシア人学生と話したりした。また、インドネシア人学生と共同で発表を行なった。

また、プランバナン寺院についての伝説を朗読したり、pastel krukup というインドネシア料理を作ったり、インドネシアの踊りを体験したり、ジャカルタをバーチャルで観光したりもした。

④ 進路への影響

このプログラムを通して、私はインドネシアへの興味がより一層深まったように感じる。私はまだ自分の進路が明確に決まっていないので、自分の進路を決める上で今回の経験を参考にしたい。